

## 第4期金沢区地域福祉保健計画（素案）に対する区民意見募集の実施結果について

第4期金沢区地域福祉保健計画の策定にあたり、区民の皆様の意見を反映するために意見募集を実施しました。貴重なご意見・ご提案をいただきありがとうございました。

### 1 実施概要

#### (1) 募集期間

令和3年9月11日（土）～令和3年10月8日（金）

#### (2) 周知方法

ア 素案冊子・概要パンフレットの配布（配布数：素案冊子…1,650部、概要版…2,000部）

区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地区センター、コミュニティハウス等

イ 関係団体等への説明

連合町内会連絡協議会、区社会福祉協議会理事会・評議員会、地区社会福祉協議会事務局長会議、民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会、食生活等改善推進委員会、青少年指導員協議会、スポーツ推進委員連絡協議会、環境事業推進委員会、区社会福祉協議会 障害当事者団体部会・ボランティア分科会等

ウ 広報媒体

区・区社会福祉協議会ホームページ、区 Twitter、広報よこはま金沢区版9月号掲載

### 2. 実施結果

#### (1) 回答者数

47人

#### (2) 意見の提出方法

電子申請フォーム 16人、電子メール 8人、専用ハガキ 10人、FAX 0人、封書 1人

その他（会議で提出） 12人

#### (3) 男女内訳

男性 22人、女性 19人、その他・答えたくない 0人 未記入 6人

#### (4) 年齢内訳

20歳未満 0人、20～39歳 5人、40～64歳 18人、65～74歳 12人、75歳以上 7人、

未記入 5人

#### (5) 意見総数

62件

ご意見は内容により分類しています。また、個人の識別性が高い情報や難解な文章などについては要約して掲載している場合もあります。

分類	件数
1 ご意見を踏まえて素案を修正したもの	10件
2 意見の趣旨が計画（素案）に含まれているもの、または素案に賛同いただいたもの	5件
3 今後の検討の参考とさせていただくもの	29件
4 その他意見・感想等	18件

## 1 ご意見を踏まえて素案を修正したもの

No.	ご意見	対応の考え方
1	内容はいいと思いますがもう少し、シンプルにわかりやすくしてほしいです。取組のページは写真付きで様子が分かりよかったです。文章が多過ぎると思います。	全体を通して文章を見直し、簡略化しました。
2	地区社協のボランティアに参加するようになり3年目になり「区役所、地区社協、ケアプラザ、地域」との係りが少しわかりました。ただもう少し重複をはぶき簡単に読みやすくしてほしい!!が希望です	
3	表紙の裏の「多様性を表すようなイラストを掲載予定」という所と、9ページの楕円形の中、ボタンちゃんと手を繋ぎあっているイラストに、できれば車イス利用者も加えて貰いたいです。特に表紙の裏の所は、まだスペース的にも余裕があるのではないかと思うので、白杖を持った人（お年寄りではない人物で!）も入れた方が良くと思います。	ご意見を踏まえて表紙裏と9ページのイラストを修正しました。
4	個人的に「健康歌声サロン」なる音楽活動を行っており金沢区の地域のシニア向けに、歌声の伴奏と音楽を使った頭や体の体操等のプログラムを提供してきました。しかしこのコロナ禍で既に1年半も全ての施設での活動が中止となり、ひきこもりを余儀なくされ楽しみも会話も無くなり、体調を崩す方もおられると聞きます。そんな中 zoom を使って自宅から自宅（施設）に向けてリモートで、ピアノとアコーディオンの伴奏に歌詞もつけて配信する取り組みを行っております。パソコンが使える方に限られますが、希望者があれば送る事が出来ますので提案いたします。	コロナ禍の活動の工夫として、地域ケアプラザ等で WEB 会議アプリを活用した多世代交流やサロンが開催されていますので、ご意見を踏まえて7ページ「SNSやインターネットを活用した新たな情報発信・交流」に取組を追記しました。また、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
5	プランの骨格では特に気になる点はありません。ただ、取組の担い手としての「地域の皆さん」（9ページの図）の表記では、各種地域団体のほか障害者団体やボランティア（団体）、地域ケアプラザなどの事業所が記載されていますが、障害者支援事業所など各種の福祉サービス事業所は見当たりません。たしかに図のスペースは小さいですし、基幹相談支援センターや生活支援センターなど一部は掲載されていますが、このプランは文字どおり「地域」福祉保健計画ですし、区民・利用（予定）者にとって誰が（何が）主要な地域の担い手なのかは、きわめて重要ではないでしょうか。例えば「福祉サービス事業所」などの一語を、ぜひ追加される工夫をお勧めします。	ご意見を踏まえて9ページの図に「福祉サービス事業所」を追加しました。
6	現役世代のボランティアの獲得へ。担い手は現役世代第3期計画の振り返りで書かれている。取り組みと成果「行なわれました」という言葉。結果がどうであったかの記述は？「地域活動の担い手が高齢化している。次の担い手につながる取り組みが必要」との記述。60歳定年。そのあとは、地域活動でもしてみるか。個人商店の人が、自由がある程度きくから、してみるか。もう、この時代は戻ってこない。定年は65歳になり、	今後の検討の参考とさせていただきます。またご意見を踏まえて、素案冊子9ページの図について、「地域の皆さん」を「あなた」という表現に修正しました。

	<p>70歳になり。個人商店はなくなり、シャッターが降りている。担い手は、子育て世代。未来に希望と危機感を持っている、現役世代がいかにか活動できる地域活動を作り出せるか。活動するには、動機が必要。動機ができれば、それを継続する「楽しさ」が必要。「義務感」ではなく、ましてや、「時間があるから」の消極的なものではなく。「やる意味」「やらなくてはならない意味」</p> <p>「時間がなくてもやる」活動を作り出せるか。現役世代の活動を支える取り組みを作る。まさに、地域活動は「ボランティア」。だれかのためにやってあげるではなく、自分のために活動するのが「ボランティア」。地域で地域の「皆さま」がいきいきと地域を誇りを持って、活動する。ポイントは会議を外に開くこと。時間と、空間も。時間は、平日の9時から、17時ではなく。基本は平日の午前中の会議という従来の形はない。もう、そこに出てこれる人はジリ貧です。少なくとも、土、日、または、平日の夜。そのためには、金沢区、区社協の担当のシフトチェンジが必要。なによりも、担当者が「自分の住んでいる地域で」ボランティア活動に参加してみるのも始めの一步かも。「忙しくても」「時間がなくても」ボランティア活動をするを考える。その実感から作り出す取り組みがあってもいい。なぜ、「時間がなくても」ボランティア活動をするのか。そこからしか、担い手は生まれません。安易に今まで、高齢者に依拠してきていないか。「時間のない」「忙しい」現役世代が担い手になってもらう枠組みはなにか。人です。行政で全てではできません。ここから出発して、その問題を閉じられた平日の区役所、いきいきセンター内での会議で考えるのではなく、外に出てゆく。地域の現役世代のいる場所はどこ。いつ。どこに。地域の取組に携わる人を増やす。問題はどうか増やす。この議論は尽くされてきて、結果が出てないことが問題。</p> <p>「支援を必要とする方が増える一方で、活動団体の7割以上が担い手不足に悩んでいます」との記述。「この地域の皆さん」に私は入っていない。例 「障害者が安心して生活をおくれるよう、地域防災拠点等において障害理解・啓発を目的とした出前講座を行っています。」地域防災拠点の避難訓練の参加者が少ない。集まっている方は高年齢。そこに、私はいません。私は、こどもです。ですが、こども会には入っていません。学校でこの話は一度も聞いたことがありません。私は、青少年ですが、青少年指導委員の方を知りません。私は、障害者ですが、障害者団体に入っていません。私は、ボランティアをいろいろ長くやっていますが、この計画のことを知りません。私は、自治会に入っていますが、「金沢ささえあいプラン地域で安心して暮らせるまちを目指しての」の話が、自治会活動の中でされたことは一度もありません。地域の皆さん 問題は、この票の中にいない皆さん。ここに書かれているだけで、生きている生身の私はいないということ。</p>	
7	一人親・ワーキングマザー・ファザーの方が病気になった際の衣食住と子どもの育児を安心してまかせられる機関がない	今後の計画推進の参考にさせていただきます。またご意見を踏まえて、地域の中で子どもを預け、預かり合いをコーディネートする横浜子育てサポートシステムに関する

		る記述を資料集（素案 39 ページ）から第 2 章（17 ページ）に移動しました。
8	<p>次世代に少しでも良い環境を引き継ぎたいとの思いで、環境事業推進委員をやっています。また、ふなだまり公園愛護会の会員としても清掃活動を行っています。</p> <p>愛護会会員 32 名中 5 名は毎朝 5 時から 1 時間程清掃活動を行っています。</p> <p>高齢者中心の会ですが、子育て世代の会員から親子でゴミ拾いをやりたいとの声があがり、5 月から月 1 回親子でゴミ拾い活動をやっています。（8、9 月はコロナで中止）</p> <p>環境事業推進委員として、地区社協の会議で周知した「親子でゴミ拾い」や「ふなだまりクリーンアップ」に賛同してくれた方からゴミ拾いの輪が拡がり、中高生にもゴミ拾いが身近になってきている事が嬉しいです。</p> <p>陸のゴミを海に流さない為に陸のゴミ拾いの大切さは海洋プラスチック問題に通じます。また、燃やすゴミの削減は地球温暖化、廃棄物最終処分場の延命化、異常気象問題に通じる待ったなしの課題です。脱炭素は世界的な課題で、企業も使い捨て容器を減らし、リサイクル、リユースに力を入れています。</p> <p>しかし消費者一人ひとりが環境に負荷を掛けない生活をする事が大切です。環境事業推進委員として、チリも積もれば山となることを思い出し、ゴミ分別、削減を周囲の人々に訴えていきたいと思っています。</p>	<p>ご意見を踏まえて環境事業推進委員の活動について 24 ページに追記しました。また、清掃活動を通じた幅広い世代の地域活動への参加について、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>ごみ分別や削減については「ヨコハマ 3R 夢プラン(横浜市一般廃棄物処理基本計画)」に基づき、環境事業推進員等と連携しながら引き続き取り組んでいきます。</p>
9	<p>せっかく大学が 2 校もあるので活用、共働するのも載せてみるのはどうでしょうか。すでに活動しているゼミもあるかと思えます。いろいろな地域から集まってくる大学生への理解と大学生の意識改革が地域に還元されていくといいですね。</p>	<p>ご意見を踏まえて大学と区役所・地域が協働している事例を 24 ページに追記しました。</p>
10	<p>39 ページ、相談・支援機関一覧に掲載のある帆海では障害がある方が安心して地域で暮らしていけるよう、あんしんサポーターが定期的に訪問・面談を行う他に、地区の民生委員さんや日中活動先職員、近隣の住民の方等に、日々の様子をさりげなく見守って頂けるよう、「あんしんキーパー」としての活動をお願いする取り組みを行っています。ご本人が安心して地域で暮らしていける為のつながり作りとその担い手確保の取組ですので、活動内容の記載をお願いしたく、ご検討の程、宜しくお願いたします。</p>	<p>紙面に限りがあるため全ての取組をご紹介しますことはできませんが、ご意見を踏まえ 71 ページの相談先一覧の記載内容を修正しました。</p>

## 2 意見の趣旨が計画（素案）に含まれているもの、または素案に賛同いただいたもの

No.	ご意見	対応の考え方
1	<p>色々な立場から取り組めること！として記載されていたのとはとってもわかりやすかったし、やってみようという気持ちになりました。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p>

2	方向性をもった、熱意の感じられる冊子になっていると思います。 又、金沢区の事がよく伺い知れる物だとも思います。	ご意見ありがとうございました。
3	「あなたなら？」はとても良いアイデア	
4	素案を拝見させて頂き、各分野部門の取組が細かく丁寧に網羅されており、私自身知らない事も多々あり、大変勉強になりました。有難うございます。社会、地域、町内会等の連携が大変重要な事であり、そして行政各区の区役所の各部門のご支援連携の重要性を再認識致しました。将来を考えますと、やはり子供の貧困、ヤングケアラー等は、大変大きな社会問題と考えます。我々大人が将来の子供達の為に、インフラを整え、バックアップしていく事で夢のある明るい社会を築いていけるのではないのでしょうか。多くの子供達に夢を持って頂きたいと思います。よろしく願い申し上げます。	
5	素案にサッと目を通しました。分かりやすいです。地域で活動していますが、手元に置いて参考書の様に活用します。 「あなた」なら？の問いかけがいいですね。こういう呼びかけから自治会加入率アップという結果が得られるのが理想ですね。14 ページに「関係機関との連携…」とありますが、地域の会議を通して顔が見える関係作りをされていることを地域の者として、心強く感じます。	

### 3 今後の検討の参考とさせていただくもの

No.	ご意見	対応の考え方
1	たくさん活動をされていることを知りました。また「障害者」の表記についての見解も知りました。多くの方にこれらの情報を見てもらう必要があると感じました。「金沢たより」のような全戸配布の資料にシリーズにして紹介されたらどうでしょうか。最初の地区事例を含め、ヒントを得ることができました。ありがとうございます。	多くの方に情報が届くよう、計画推進の参考とさせていただきます。
2	ささえあいプランとても理想的であるが、やはり人材確保は現実的な課題です。 高齢者が多数で専業主婦はほぼいない中、少しでも活動に参加してくれる人を見つけていきたいものです。	地域活動の担い手の育成や支援を進めていきます。また、趣味や特技を活かす等、地域活動への新しい参加の形を検討・推進するとともに、SNSを活用した情報発信など若い世代に向けた広報を工夫していきます。
3	私の地域では地域活動に参加する人が少ないので、「金沢ささえあいプラン」の推進の柱2地域の活動を支援してほしい。また、30代～50代の人に地域活動に参加してもらうための取組や工夫について指導してほしい。	
4	町内会活動の行事でも参加者はいつもと同じ顔触れ、限定しています。参加者を増やす工夫が必要です。	
5	地域の外国人居住者との交流の機会を増やせる企画が欲しいと思います。	金沢国際交流ラウンジとともに「金沢ラウンジフェスティバル」

		等、異文化交流イベントを様々な実施しています。金沢国際交流ラウンジでも情報提供をしておりますので、ぜひお立ち寄りください。
6	私は主任児童委員で子ども食堂のリーフレットを預かったので配布しようかと思いましたが特定の児童に渡すのは失礼ではないかと思い配布できていません。 ひとり親家庭への食料支援のと同様です。学校から全員配布してもらおう方がいいのではないかと思います。ご検討おねがいします。	子ども食堂のリーフレットは、区内の小中学校、高校、大学に配付していますので、日常の活動の中で可能な範囲でお配りいただければと思います。なお、ひとり親世帯の食支援の周知については、区役所を始め区内の相談支援機関にもチラシの配付をお願いしています。
7	かもめ体操の普及PRについて 大分前ですが、金沢区独自の高齢者用健康体操としてかもめ体操が市大で開発され、ビデオテープが配布されたことがありました。しかし、この頃は全く耳にしません。再度PRされるとともにこれを区のホームページで閲覧できるようにし、更にダウンロードできるようにすれば、欲しい人が自分でDVD化も可能です。費用も格安かと思料いたします。	かもめ体操については動画を作成し、金沢区役所のホームページにも外部サイトのご案内を掲載しています。またインターネットを利用されない方向けにリーフレットを作成し、区役所その他、区内の地域ケアプラザ、郵便局でも配布しておりますのでご覧ください。 今後、いただいたご意見を参考に、効果的な普及啓発の方法について検討します。
8	町の様子を見てわかるようにしたら新住民、旧住民の話のきっかけになると思う。海・山・町ごとの祭りの歴史や幼・保・小・中・高・大学の区制前からの様子もおもしろいと思う。 人口が増加をたどる頃、埋立地の様子またあちこちの商店街の様子もかなりかわった。住宅地の変化も公会堂や区で展示するとおもしろいと思う。金沢の歴史は各学校同窓会の歴史と重なったら変化が見られ、若い人・子供の郷土愛につながると想像する。	今後の検討の参考とさせていただきます。
9	病院にて医療福祉職に就いております。冊子自体が誰に向けたものなのか、判然としない部分がありますが、仮に金沢区民全員に向けた物であると仮定して回答いたします。 全体を通して情報量が多く、伝えたい情報が入ってこない印象を受けました。医療従事者、福祉従事者、一般職、障害者、外国人などなど、対象が広すぎることで、情報もまとめ切れていないように感じます。全体の情報をもう少し取舍選択するか、「医療福祉に従事する方」「障害をお持ちの方」「外国籍の方」など、対象のジャンルを分けて情報を整理してはいかがでしょうか。	計画は国籍や障害の有無、職種等を問わず金沢区内の全ての方を対象としています。計画の推進に当たっては対象者に応じた情報発信の方法を検討します。
10	介護の現場にいると孤立した人々の多さに驚かされます。社会的孤立と同時に情報の孤立が悪い循環を作り、ますます孤立していきます。そういう方々にどう発信するかわび真剣にお願いしたいと思います。	対象者に応じた情報発信の方法を検討するにあたり、今後の参考とさせていただきます。
11	地域の中で、仲よしさんをつくろう！佐藤さんのことは鈴木さんが良く知っているよのように（仲よしさんをひもで結びます）こういう関係を町内会単位でも認識しているところまり事が発生し	今後の検討の参考とさせていただきます。

	<p>た場合、便利ですよ。</p> <p>新型コロナ感染症が流行して、様々な悩みが発生している今。悩みの相談ができずにひとりぼっちになる人をなくしたいです。よろしく願い致します。</p>	
12	<p>15 ページの[民生委員・児童委員による地域での見守り活動]についてですが、その役割として[誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一人暮らし高齢者の方への見守りや、相談内容に応じた関係機関との連携、地域サロン等の地域活動の担い手等、さまざまな活動を行っています]とありますが、37ページの金沢区シニアクラブ連合会には[友愛活動]という組織があり各支部5名の委員がおり上部組織[横浜市老人クラブ連合会]より委嘱状をもらい活動しています。この活動が民生委員と同じ様なことをしており、合同で作業を出来るようにしてもらいたい。(厚生労働大臣と横浜市長から委嘱された特別な人として振る舞うことなくできないか?)</p>	<p>民生委員・児童委員が把握した個人情報について、本人の同意を前提として、友愛活動員等の地域の方に最低限必要な情報をお伝えし、一緒に見守り活動を行うことは可能です。</p>
13	<p>自治会存続のための方法(「データで見る金沢の現状」を読んで)行政の施策を推進していくために、住民の最も基礎的な組織としての自治会の役割がますます重要となっています。一方で自治会加入率は減少の一途を辿っています。(プラン資料P.34)。この原因として少子高齢化が挙げられます。また、かつては町内会に顔役・重鎮の方がおり、良い悪いは別として町内のまとめ役となっていました。現在は、こうした存在も困難と思われる。自治会の必要性は認めるが役員にはなりたくない。これが住民の本音だと思います。また、役員の任期が一年のため一過性の課題には取り組めるが、継続的な課題(防犯・防災)はなかなか進まないのが現実です。この傾向は今後も続くと思われます。当地区では、自治会の他に有志によるボランティア組織がいくつか存在しております。地域での祭り・イベントに際し、自治会と共に活動し補完的な役割を果たしてきました。今後、自治会とは別に専門性の高い組織を立ち上げ、一つのテーマについてメンバーを固定化し取り組むような方向で考えています。このように脆弱化する自治会を補完するためにも有志による組織が必要と感ずます。行政としてはこの有志の組織を支援(財政的・教育的・技術的)する方向でお願いしたいと思います。</p>	<p>金沢区では、自治会に限らず多様な主体の地域活動について、一緒に考え自立できるように一定期間内支援させていただいております。ご意見については今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
14	<p>金沢ささえあいプランについての意見</p> <p>「地域で安心して暮らせるまちを目指して」目標も意見も、やらなければならないことも整理されて、すでに出されている。問題はなぜできないか。</p> <p>そもそも論として、このプランが、地域のみなさんに周知されているか。なぜ、できてこなかったか。プラン策定者の担い手の問題はないか。既存の組織体制で、やっていけるのか。</p> <p>担い手は、ボランティアで、今後は、現役世代をいかに参加してもらうかがポイントになる。そのための仕組み作り。既存の組織の活性化をいかにするか。新しい血の導入である。</p> <p>そのひとつとして。地域の子供たちへの取り組み。未来の地域の担い手になるという視点。小学校、中学校、高校、地域の大学(横</p>	<p>ご意見については今後の検討の参考にさせていただきます。なお、金沢ささえあいプランでは子どもの頃から福祉教育に触れる機会の拡充を目指しており、中学校の技術家庭科の学習目標に対応して中学生が自分の地域について学び、必要な取組を考えるためのワークシートを作成しました。今後はワークシートを活用した学校と地域との接点や交流が増えるよう取組を推進していきます。また、現在、地</p>

	<p>浜市立大学、関東学院大学)への「地域に関わるボランティア教育」の取り組み。イベント。または、プログラムへの参加経験の蓄積(動機付け)。から、イベント、プログラムの担い手になってもらう、道筋を、短期的、長期的な視点で作る。手始めに、既存の金沢区のボランティア対応組織で、今できていること、できていないことの整理を行う。区社協ボランティアコーナー、金沢区役所内「金沢区民活動センターゆめかもん」、横浜市立大学ボランティア支援室、関東学院大学学生支援室、区内高校のボランティア担当教諭に集まってもらう会を開く。1回目。次に何ができるか。2回目と、設定できないか。</p> <p>例 金沢区災害ボランティアネットワークの「てんでんこプログラム」</p> <p>「てんでんこ遠足」災害を知る取り組みに参加する</p> <p>「てんでんこ競争」のプログラム進行補助をする。</p> <p>例 認知症啓発(RUN 伴) 大学生が、中心として実行している。大学生から、高校生へ。小学校、中学校での「ボランティア教育」を始める。先生は大学生、高校生。</p> <p>ボランティア経験の経験談のお話からでもいいのでは。</p>	<p>域ケアプラザ・区社協では大学と連携したボランティア養成講座を行っているほか、小学校・中学校・高校向け「福祉教育」を行っており、今後多くの学校に広げていけるよう推進していきます。</p>
15	<p>コロナ禍なのでしょうか。岸から海釣りを楽しんでいる人を多く目にします。区内で釣りのベテランの方を募集して</p> <p>①海釣りの魚と仕掛けづくり、②釣りのマナー、③釣り場の安全確認などの講習会をボランティア関連の講習会と抱き合わせで開催してみる。</p>	<p>今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
16	<p>地域のリハビリテーション病院などと連携して高齢者や障害者等を対象としてロコモティブシンドロームに対しての身体能力評価などを実施したりできると一人一人の健康意識の増進につながると思いました。</p>	<p>現在、高齢者を対象とした自主活動グループにリハビリテーション専門職を派遣し、講義や活動内容へのアドバイスをしておりますが、派遣対象や内容については今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
17	<p>金沢ささえあいプランを見ると、いろいろな活動があり羨ましいです。働いている世代が利用できるものはあるのでしょうか？首都圏へ仕事にでかけているため夜間の利用が出来ると良いのですが。また、こういう活動は年配者しか活動しておらず、働く世代の参加が少ないです。例えば30代の方が喜んで参加出来るような施策は考えていますでしょうか？</p> <p>今やボランティアとはいえ、無償で時間を提供するような人は少なくなっている気がします。</p>	<p>あらゆる世代が楽しんで参加できるような仕組みづくりについて今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
18	<p>中学生の部活についてです。コロナという難しい時期で、部活が大変で、外部の人を入れるのも大変なのはわかっています。それでも、子供たちが少しでも成長を感じられる様に、顧問になってくださる先生の負担が減る様に、外部の指導者に入っていただくのはどうでしょうか？その中学校の周辺に在住されてる、スポーツに精通され方はおられると思います。大学もたくさんあります。必要とするマンパワーと外部コーチの相性や時間などのマッチングなどをして、少しでも子供たちの部活の活性化を希望しま</p>	<p>得意なことや興味があることをきっかけとした地域とのつながりづくりについては、金沢ささえあいプランにおいて取組を進めています。また、地域と教育機関との連携や仕組みづくりについては今後の検討の参考とさせていただきます。</p>



	す。	
19	<p>最近すごく感じていることがあります。今の中学生達が活躍する場所が少なすぎてとても残念に思うのです。特にスポーツに関してです。頑張っている子供たちにもっと専門的に教えてあげられる環境を作ってあげるのはどうでしょうか？</p> <p>学校の先生の負担が増えてしまうと思うので、外部のコーチなど、ボランティアやアルバイトでも良いので専門的に技術のある大学生や経験者など、素晴らしい方々に教えていただける機会があれば、子供たちもより一層充実した中学校生活になると思っています。</p>	得意なことや興味があることをきっかけとした地域とのつながりづくりについては、金沢ささえあいプランにおいて取組を進めていきます。また、地域と教育機関との連携や仕組みづくりについては今後の検討の参考とさせていただきます。
20	<p>推進の柱1についてです。『年齢を越えた異世代との触れ合い、特に若い世代との交流が大切だと思います。高齢者になればなる程、刺激がなくなるので例えば近くの自治会館に、高校書道部に来てもらって部活してもらおう。ダンス部に来てもらい、鑑賞するなど。自治会などは教育機関と連絡手段や方法がわからず、繋いでくれる窓口があれば、それを利用して世界が広がり、若い人と地域が繋がると思います。自治会町内会の活動の手詰まり感も無くなると思っています。</p>	
21	<p>町会、地域行政が連携して街を良くしていこうとする取り組みの認知がまだまだ十分でないと思われます。町内会などに参加していなくても、また小学生の子供まで広く認知され、街全体で理解されて、参加者の増加、活発で効率的な活動により、良い循環が生まれることを期待します。テレビ媒体での情報発信、お年寄りには特に効果的ではないかと。子どもたちへの発信、高校生や大学生にはボランティア参加型で巻き込む、子育て世代には隙間時間にアクセスできるようなオンデマンド型の情報発信など。全住民が当たり前のように住みやすい街にする取り組みについて知っている状態にしたいですね。言うは易しですが、いろいろな地域ネットワークがもっと見えるようにして、守られている安心感を実感できるとよいです、子供からお年寄りまで。</p>	計画や取組の認知度については課題と考えています。ボランティア参加型や隙間時間にアクセスできるような情報発信の方法等について今後の検討の参考とさせていただきます。
22	<p>最近金沢区に引っ越してきました。子どもがまだ小さく、地域で暮らすのに不安もあったため町内会に参加しました。町内会に参加したら役員の皆さまがとても温かく受け入れてもらい、いろいろな人と知り合いになり町内会に入ってよかったと思いました。しかし、どのようにして入れればいいかわからず、入るまでの段取りに時間がかかりました。私みたいに引っ越してきて不安があるかた、少しでも町内会に興味がある方が参加できやすいようにご近所同士での挨拶や声かけをみんなでやり、町内会にも参加しやすい環境が作れればよいと思います。</p>	金沢区では、転入された方へ「自治会町内会加入のご案内」リーフレットと入会届の配布を行っております。また、市ホームページ内「自治会・町内会入会届フォーム」でも自治会町内会への加入の手続きが可能となっておりますが、今後もより加入しやすい仕組みづくりを検討してまいります。
23	<p>第3期計画の振り返りの記述について</p> <p>多くの報告書の記述について疑問があります。それは「〇〇で行なわれました。〇〇が行なわれました」という記述です。問題は「行なわれた結果どうであったかの検証です」行ったあとにアンケートはとられているのか。その分析結果はどうであったのですか。課題について地域の取り組みに携わる人を増やす。</p> <p>「支援を必要とする人は増える。活動団体の7割以上が担い手不足</p>	今後の検討の参考とさせていただきます。

	<p>に悩んでいる。」活動の周知「計画や取り組みを知らない方が多い状況」</p> <p>この十数年来言われ続けられている課題です。課題はわかる。その方策は何がなされ、結果、何が必要か。の提示です。</p> <p>「若い方たちに地域の活動に参加してほしい」なぜ、若い人が地域活動に参加していないのか。</p> <p>しめされている活動が、若い人が参加したい地域活動か。そもそもその活動を考えているところに若い人が入っているか。参加しやすい場所、時間の設定はできているか。そもそも参加したいという動機付けが考えられているか。</p> <p>そもそも若い人とは、だれか。どこのだれを想定しているか。具体的な対象を考え、アプローチし、トライアンドエラーがされてきたか。そもそも、そのような、計画の提示をされてきたか。</p>	
24	<p>広報問題。</p> <p>広報紙。自治会、町内会の回覧板の他に。</p> <p>SNS。ツイッター。インスタ。担い手は。学生さん。その前に、区役所、社協に、広報の部門はありませんか。</p> <p>葉山町ホームページの「はやまLife」「葉山を写真で見る」は、バズっています。</p> <p>金沢区でも始まりましたね。ただ区民が写真を撮るだけでなく、ぜひ、職員のみなさんも、コアメンバーに。発表の場は、外です。</p> <p>さらに、インスタへ。</p> <p>区職員、区社協のみなさんが、金沢区を愛する活動を、区地域に出ていきませんか。</p> <p>今まで出会えなかった人と会ってください。勤務外でも。出ていきたくなる活動を始めてください。</p>	<p>金沢区では、広報媒体として紙媒体の広報よこはまや区ホームページ、SNS (Twitter、Instagram) を活用しています。SNSの活用にあたっては、区民の皆様(区民カメラマン)から頂戴した写真だけではなく、区職員が自ら地域に出て撮影した写真等も使用しています。引き続き、いただいたご意見も踏まえ、取り組んでいきます。なお、広報に関する部署は区政推進課が担当となります。</p> <p>また、区社協においても現在、地域の活動を発信していけるようホームページの充実や SNS 開設に向け検討しています。</p>
25	<p>第4期地域福祉保健計画(R3~R7)に向けて 第3期計画の進捗状況と課題(区民意識調査や第3期計画の年度振り返りなどから)</p> <p>◆サロンなどの地域の居場所づくりや多世代交流イベントなどの開催、防災対策を通じた地域支援の体制づくりなど、「誰もが安心して住み続けられる安心のまちづくり」を目指して様々な取組が行われています。一方で、区民意識調査では、こうした活動や取組を知らない方が多い状況です。</p> <p>◆少子高齢化はさらに進み、H31.1月時点の金沢区の高齢化率は28.8%(18区中第3位)ですが、横浜市将来人口推計では、2040年に高齢化率40%に達すると推計されています。</p> <p>核家族化も進んでおり、孤立した状態で子育てや介護・看護を担う当事者も少なくない状況です。</p> <p>区民意識調査では、暮らしの中で気になっていることや困っていること、不便を感じていることとして、1位「自分の病気や健康、老後のこと」、2位「家族の健康や介護」となっており、将来への不安を感じている方が多い状況です。誰もが健やかに、安心して</p>	<p>いただいたご意見は今後の参考とします。また、金沢ささえあいプランでは子どもの頃から福祉教育に触れる機会の拡充を目指しており、中学校の技術家庭科の学習目標に対応して中学生が自分の地域について学び、必要な取組を考えるためのワークシートを作成しました。今後はワークシートを活用した学校と地域との接点や交流が増えるよう取組を推進していきます。</p>

暮らせるまちづくりの必要性はさらに増しています。

◆地域役員等への意識調査では、地域活動の担い手不足が課題となっています。区民意識調査では、地域活動の担い手として参加するための条件として、「きっかけ」「参加しやすい雰囲気」「情報」が「参加したくない（またはできない）」より上位となっており、ニーズを踏まえた活動の支援や活動を始める機会の提供などにより、担い手の発掘・育成を進めていく必要があります。

金沢ささえあいプラン

推進の柱1 誰もがお互いを尊重し共に支えあう地域へ

推進目標 多様性を理解し日常生活の中での見守りや助け合いを推進

推進の柱2 誰もが活躍できる場やきっかけの拡大

推進目標 地域で活動したい気持ちを育む・つなげる

推進の柱3 みんなで健康づくりに取り組みいきいきとしたまちへ

推進目標 幅広い住民層が取り組む地域の健康づくり活動の充実  
上記課題と推進の柱を考えての活動として、何が必要か、考えてみました。

金沢ささえあいプランの目的とするところは理解していますが、その活動の大部分は、「老人の、老人による、老人のための活動」に見えています。

市役所、区役所の業務として、ある程度のイベント性は必要でしょうが、その対象（参加者）は将来の福祉を担う方々であってほしいと思います。実際問題として若年中年層は時間に余裕がなく、時間に余裕のある高齢層の参加が多いのでしょうか。

金沢区の将来像としては、老々福祉ではなく、全世代が一体となつての福祉活動となつてほしいので、そのための気付きを得られるような取り組みとして、以下のとおりいくつか考えてみました。

①日常での福祉活動を公の立ち位置で認め合うことができる仕組み

例えば、両親や家族の支援や介護の実体、町内会活動などを数値化

②日常の介護や生活支援も地域の活動と理解し、支援のハードルを下げ、支援活動の輪を広げやすくする仕組み

例えば、町内やご近所の要支援要介護の方の買い物なども、地域活動として取り上げかつ数値化

③数値化した作業内容は、個人に還元できる仕組み

例えば、数値化した作業量に応じてインセンティブになるように、同様の介護サービスを受ける権利とかごみの収集券とか敬老乗車券の費用に充てられるなど、とにかく単なる労働奉仕にしないことが重要と思います。①、②、③がセットであれば、参加できる方が増えるのではないのでしょうか。

④今後の担い手として、これから社会に出る小中学生に視点を置くべきではないのでしょうか。

例えば、一部の中学で介護に関する授業もあるそうですが、様々な立場で福祉活動を支える人材育成という視点であれば、小中学

	<p>校 0B が 30 年 40 年勤めた会社での成功談失敗談を紹介することなども、社会とのつながりを直接経験できる機会と考えられます。</p> <p>以上、いくつか思いつくままに述べた。「明日は我が身」と感じている高齢者の意見ですが、ご参考用まで。</p>	
26	<p>最近金沢区に引っ越した子育て中の母です。もともと交通量の多い道路に面したところに住んでいたため、夜も静かで子供を寝かせるのには助かっております。ただ、買い物するのに今までは駅に行けばお店があり必要なものが買えたが、今住んでいるところはあまりお店がなく週末に夫に車を出してもらいまとめ買いをしないといけないところが不便です。</p>	<p>坂が多い、店舗が遠い等の買物が困難という地域に対して、区内の一部地域では、民間事業者と連携した移動販売等の取組も始まっています。今後も地域の実情に応じた取組を検討していきます。</p>
27	<p>2021 年、内閣府から、個別避難計画の作成が市町村の努力義務として示されました。</p> <p>従来、要援護者のリストが個人情報の問題で、自治会、町内会長の手元でストップしていて、援護支援の具体的な対応がなかなか具体化できていなかったことに対して、近年の風水害の多発で待たなしになっていることを示しているのではないのでしょうか。</p> <p>どこに助けてほしい人がいるのか。助ける人はだれか。</p> <p>これを、普段から、リストアップして、対応する体制を作る。従来はこれでした。</p> <p>新しい発想。災害時のその時に、助けてほしい人、助けられる人がどこにいるかが誰にでも見える取り組み。</p> <p>一つ具体的な提案です。</p> <p>赤、黄色、青のバンダナを各家庭に事前に配布する。</p> <p>災害時、すぐ助けがいる人は、赤。すぐでなくても、助けてほしい人は、黄色。助けに行ける人は青。</p> <p>バンダナを、外から見えやすい窓にくくりつける。助けの必要がなくなったら、赤、黄色のバンダナをはずす。助けにいけなくなったら、青のバンダナをはずす。</p> <p>災害時、その時に、誰が助けを求めているか、助ける手助けをしてくれる人の見える化です。</p> <p>災害は、人を選びません。従来の要援護者はもちろん第 1 優先ですが、障害を持っていなくても、普段は、助けが必要でなかった人が、その時に、急に必要になる可能性は多いにあります。</p> <p>災害時、隣同士の助け合いが、言われてきました。しかし、地域付き合いがすくなくなった現状で、これを作りだすことがネックになっていました。しかし、災害が起きた時に、そこに、助けを求めている人がいて、助けられる人がいたら、助けようと、行動を起こしてきた例が、いくつもありました。</p> <p>災害時に、災害地区外から、多くのボランティアが駆けつけてきます。その時の活動の大きなものが、災害状況の把握です。</p> <p>避難所だけで、援助は完結しないのが、現在の災害対策です。在宅避難者への援助の具体策の必要性が言われています。</p> <p>家並みが続いていて、要援護者リストを持って、見て回るのでしょうか。</p> <p>助けてほしい状況も、時間と共に変化します。</p> <p>災害が起こった瞬間では、助けが必要でなかった人が助けを必要</p>	<p>「個別避難計画」については、災害対策基本法の改正に合わせて国から新たな「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」が示され、本市においても現在、検討中です。個別避難計画の策定は非常に重要ですが、一方で、支援者の確保や要援護者とのマッチングなど、課題も少なくありません。</p> <p>いただいたご意見につきまして、今後の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>具体的に取り組んでいる地域の事例を紹介した冊子がありますので、ご確認ください。</p> <p>【共助による災害時要援護者支援の活動事例集】</p> <p><a href="https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/chikiifukushi/yogoshien/saigai_r2zireisyuu.html">https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/chikiifukushi/yogoshien/saigai_r2zireisyuu.html</a></p> <p>【町の防災組織活動事例集「ヨコハマの『減災』アイデア集」】</p> <p><a href="https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyubohan/bousai-saigai/chikitaisaku/jireishu.html">https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyubohan/bousai-saigai/chikitaisaku/jireishu.html</a></p>

	<p>になるかもしれません。助けられる人は、時間経過とともに増加します。</p> <p>助けを必要とする人が、どこに、いるか。窓に赤いバンダナがある。あそこに、いる。</p> <p>いける人は、窓に青。意思表示している人がいる。あの家に声をかけよう。</p> <p>その瞬間の助け合いの見える化です。</p> <p>普段からの 近所の助け合いをと言われてもなかなか具体化できませんでした。</p> <p>赤、黄色、青のバンダナを窓に出して、どこに出すと見やすいか。</p> <p>訓練時に、みんなで、確かめ合うのはいかがですか。</p> <p>まさに、「お互い様」です。「助ける、助けられる」がいつ入れ替わるかがわからないのが、災害時です。</p> <p>いつ起こるかわからない災害を「自分ごと」にする、具体的な体験を、繰り返すことが、一番です。</p> <p>年に1回でも赤、黄色、青のバンダナがはためいている風景の共有化ができれば、「地域の助け合い」が具体化された、風景になるのではないのでしょうか。</p> <p>すでに、災害訓練の時に、各家庭の玄関に、「大丈夫です」というノボリを出す取り組みを始めた町内会があります。</p> <p>こんな、いろいろな取り組み例の提示をお願いします。</p>	
28	<p>課題を「自分ごと」 「課題の見えるか」することによって課題の見えるか</p> <p>課題、取り組みは提示、広報されているはず。しかし・・・・・・</p> <p>実際は、ここです。課題が見えていない。そもそも見ようもしない人が悪いのか。見てもらえない。</p> <p>区の広報は届いているか。自治会、町内会に入っている、回覧板は、右から左に「見ました」のハンコを押すだけ。自治会にも、町内会にも入っていない人は。</p> <p>新聞もとっていない人が増えている。テレビも見えていない。そんな人に担い手になってもらう方法は。</p> <p>「出会ってもらいましょう」</p> <p>従来の枠組みに安住しない。地域に出ていくこと。「出会ってしまう」ことの意味。時間と場所。地域防災拠点、自治会、町内会に依存せず、「一般の人」を対象にして。</p> <p>地区センターがポイント。より地域のこどもたちが勉強に、お年寄りが囲碁、将棋。卓球、バドミントン、ピアノの演奏、合唱。</p> <p>私は、元気。障害もない。歳をとっていても、誰の世話にもなりたくない。そんな、「保健福祉」のつく広報を見ない人たちへのアプローチ。ケアプラザ、いきいきセンター、区役所の保健、福祉の窓口に出入りしていない人たちへのアプローチ。</p> <p>場所はあります。とりあえず、地区センター。自治会、町内会に入っていない人も、ケアを心配ない人も。使っている。こどもたちも来ている。ただ、来ている子。地区センターをとりあえずの居場所に行っている子供達、スポーツをしに来ている子。あまり保健福祉に関係ないという人に出会ってもらうことです。地区センターの活用はケアプラザや、区役所での講座などの情報発信より</p>	<p>今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

「出会う可能性」は高いのでは。金沢区役所内「金沢区民活動センターゆめかもん」の地区センターでの「ミニ講座」の取り組みは、一つのヒント。ただ、講師が、活動センター登録団体、登録者に限られている。

ここを開けないか。講師になる人大募集。登録を待っているのではなく、外に出ていく。ボランティアの登録を待っているのではなく、地域に出て、掘り起こしていく。地区センターごとに出て行く。

まだあります。金沢八景のイオンの前の宮川沿いのテラス。ここで「地域の皆さん」に出会ってもらおう。子育てについての相談を「とことこ」さん。ボランティア活動を「区社協ボランティアコーナー」さん。地域活動を「区民活動センター」さん。みんなが、「自分の場所に来る人を待つのではなく」「出合いを求めて、出ていく」取り組み。「1日青空区役所、1日青空社会福祉協議会」を気持ちのいい青空の下でやれないか。例 金沢図書館の取り組み。今までなかった、図書館入り口の展示。さらに、図書棚のある2階への階段のあがりの展示。「出会ってしまっています」ね。さらにいい場所があるではないですか。足元暗し。区役所前の芝生広場。ただの空き地ではなく、何かあれば、集まれる場所に。災害時、区役所にとりあえずくる人が大いに予想されます。その時、この広場はどういう状況になっていますか。想像されていますか。普段から、この広場がみんなの広場として、親しまれているか、否か。ここで「金沢ささえあいプラン」のパネル展示。子育て世代の「遊びの空間」と併用したらどうか。それも、一度きりではなく。

「とことこ」さんにも「とことこ」さんから出てきてもらう。

「LINKAI 横浜金沢」さん。出てきてくれてますね。金沢臨海部産業団地。知らなかったですね。出会ってなかったです。ものづくりイベントを体験ワークショップを関東学院の学生が行う。場所は、泥亀公園。これです。残念ですが、これも年1回？ 隅の方で、数人の親子が遊んでいる。ベンチに一人、二人。この泥亀公園。の風景を変えてみませんか。少なくとも月に1回。あそこって、何かやっているよね。

ただ、楽しいではなく、これからの金沢区の問題を考える場。アイデアを出してもらおう。

横浜市大、関東学院大学の皆さん。いろいろすでに動きだして、いろいろやっていますね。それを中、長期的な「金沢ささえあいプラン」に落とし込む取り組み。

日常の生活活動で出会ってもらおうということ。

課題だけでなく、地域の見えるかも必要。金沢に住む誇りを持ってもらう。金沢いいところ。「ここで暮らしたい」からしか、このプランは始まらない。金沢は、歴史、自然、の街。例 金沢区で始まった「金沢の写真撮る活動」。

これも泥亀公園。芝生広場。または、イオンの前で展示しよう。区役所の展示スペースに見にくる人を待つのではなく。出会うこと。「金沢ささえあいプラン」を考えてもらう入り口を多種多様にする。

	<p>注目しているのが、従来の取り組みに安住しない新しい取り組みとして、認知症啓発（RUN 伴）です。第4期金沢区地域保健計画（素案）p. 15</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生を中心とした実行委員会</li> <li>2. 認知症の当事者、家族、支援者、さまざま福祉施設、拠点をつないでいる。</li> <li>3. 「沿道ですれ違う人たちからもたくさんの声援を受け」 出会っていますね</li> </ol> <p>このような取り組みが、どのようにして組み立てられ、実施されるようになったかがの検証することが、ヒントになると思われる。</p>	
29	<p>担い手問題について</p> <p>第4期の推進の3つの柱に地域活動の担い手不足に対する取り組みを拡充し、取り組み携わる人を増やしていきます。</p> <p>地域で活動したい気持ちをはぐくむ・つなげる 主な取りくみ 情報発信 ボランティア活動や・・・参加できる機会の充実</p> <p>誰もが自身の・・・いままでもなされてきたのでは。これらの取り組みのどこに問題があったのかの記述は。その計画は。すでに意見は出されています。</p> <p>「こどもの頃から福祉や人権の教育、地域の行事への参加を通じて、将来のボランティアにつながるような「きっかけ」を広げていく取り組みが必要」</p> <p>学校でも福祉教育も始まっています。</p> <p>この取り組みが学校内で終わっていないか。中学生が自分の地域で必要と考える取り組みを地域の皆さんの前で発表するな交流が生まれており。</p> <p>まさに、この部分です。この取り組みが、たまたまのものではなく、学校の中だけでとじられていなかったか。地域の取り組みが今まで孤立してはいなかったか。地域に出て、相互に関係性を交換してこそ、まさに、そこに、「地域が生まれる」</p> <p>「地域があって、地域がない。」地域活動は地域を作り出す活動という視点です。</p> <p>金沢図書館と金沢国際交流ラウンジの「多言語おはなし会」も、見えていない地域（多国籍者がいる地域）の「見える化」につながります。</p> <p>このおはなし会を、金沢図書館だけで止めるのではなく、小学校、中学校、高校、大学で行い、さらに、イオン前の宮川沿いのテラスで、区役所前の芝生広場で開かれれば、さらに、「地域が作りだされてくるのではないのでしょうか。取り組みを外に開く。取り組みの相互交換。</p> <p>認知症の啓発（RUN 伴）これこそ、今までにない取り組みで、今後の「担い手問題」「広報問題」に対する一つの回答になるのでは。大学生の実行委員会というのがポイント。どうやって、実行委員会を作ってきたのか、この検証を行い、他の地域課題への取り組みにひろげられるか。「沿道ですれ違う人」取り組みを外に出すことがまさに行われてます。「外に開く」活動がされていま</p>	<p>組織内で完結せずに地域や企業と連携した取組を発展していけるよう、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

す。

#### 横浜市と京急協同のまちづくり

企業と行政、大学も参加しての取り組み。会議も平日ではなく、土日。参加者も従来の自治会、町内会の関係者以外への呼びかけ。若いお母さんたちが、働く場を求めて活発にテレワークについて話されていました。しかし、まだまだ、この取り組みを知らない能見台の住民の方もいました。今後、京急ストアの前に広場に出ていくプログラムも進行中です。「外に開く」活動です。

担い手はボランティア。この視点です。今までの担い手がだれであったか。青少年指導委員。児童委員。スポーツ推進委員。保健活動改善委員。〇〇委員。地域の代表＝自治会会長、町内会長。ここにプラスしていくこと。

60 歳定年制の時代は終わりました。比較的時間の自由が効く人の個人商店はなくなってきています。今までの担い手の仕組みでは、ジリ貧になってきているのは、課題でもすでに出されています。

地域活動やボランティア活動に興味がある人が増えている。「はじめているよ。こんな取り組み」がいろいろ紹介されています。ただ問題は従来の取り組みとの違いがわからない。全体が「趣味、時間がある人、余暇、人のため」などなどの従来のボランティアの像。対象は高齢者の姿しか見えないのでは。時間がないけどする。人のためではなく、自分のために。ボランティア活動とは思っていない、自分がいかされるからこそおこなっている。そんな新たなボランティア像。いわれるから、割り当てられたから、指名されたからではない。自主的に動き出すこと。まさにボランティア活動。従来の枠組み、発想を壊す取り組み。そのためには、どうしたらいいか。発想をどのように得るか。今ランニングブームです。走るのが好きな人から→ラン(伴)。てんでんこ競争野島山今焚き火ブームです。野島公園ではキャンパー、バーベキューが大流行り。ここで、焚き火サロン。災害時のシェルター作りイベント。ここから、災害への関心、を引き出していく取り組みなど。宮川で SUP をやっている人が、川のゴミ問題、さらにプラ問題へ。川清掃の現役世代の参加で出てきました。

地域の課題はあります。現在に不安を持っている人がいます。現役世代は、子育て世代。こどもの未来に不安をもっています。今動かなくてはとの思いは、子育て世代の思いです。この世代は、共働き世代です。忙しいです。ただ、この世代は、スマホ世代でもあります。学校の PTA 活動も、学校に集まって会議を開いてません。スマホソフトで、議事録を交換し、日程も、アプリで調整して、できるだけ集まらなくても、活動できる活動をしています。忙しくても、できる活動を、しています。地域の担い手になる確かな「動機は」あります。そこに火をつける。まずは、会議、イベントを平日の昼間にするのではなく、現役世代が出られる時間にする。そのために、区、ケアプラザ、社協の担当者の勤務をシフトの変更。スマホアプリを使った会議のノウハウを発信する。子育て世代を生かす。中心にした、「担い手作り」作りを。です。



#### 4 その他意見・感想等

No.	ご意見	対応の考え方
1	読むのにかなり根性がいらすね。興味のない人にはP1でやめてしまいそう…もともと興味のない人は手に取らないですね…話を聞いても全く頭にはいってこなくてよくわかりません…そもそも誰のための何のための計画なのでしょうか？この冊子誰に手に取ってほしいですか？	多くの区民の皆さんに金沢ささえあいプランの内容を知っていただけるよう、計画の概要版を作成し、全戸に配布します。また、SNS等も活用して幅広い世代へ周知・啓発していきます。
2	冊子の印象としては”わかり易く”を目指して下さったと思いますが説明があつてやっと向き合えるかなと思いました。	
3	思った以上にページ数が多く伝えたいことがたくさんあるのはわかりますが、読むのに時間がかかりそうですね。子育てや介護、働いている方々がもっと見てわかる見出しだけの小冊子（細かいところはQRコードでわかるなど）だと伝わりにくくなりそうですし、難しいかと思いますが…	
4	できれば頁数もう少しスリムに	
5	第一印象は先ず、分厚い、長いでした。正直な所、ささえあいプランの成り立ちや活動計画等にはそこまで興味はありません。もう少し短くまとめられていると読み易いのではないのでしょうか。具体的にどんな支援、取り組み、イベントがあるのかというのが一番知りたい事であり面白い所だったように思います。冊子の読み方については必要ないのではないのでしょうか。	
6	はじめて「金沢ささえあいプラン」素案の流れ、説明を伺う機会に参加し、大変、勉強になりました。 この新型コロナウイルスで中々思う様にならない今、このささえあいプランが、皆の勇気や希望につながるものになることを望みます。協力もさせていただきます。	ご意見ありがとうございました。
7	ちふくちゃんとぼたんちゃんがかわいかったです。	
8	此の様な時期に活動をつづける事は大変な事だと思います。それと人が集う場所を作る事の大切さと必要性を感じました。良い所を学び町内活動に活かしたいと思います。	
9	素案5章を見ると、どう考えても今後40～50年、ささえあいパワーが増加するとは全く思えません。特に区単独でなんとかしようとするなら極く限定された部分に注力し、区の独自性を持つ他ないように思います。地域福祉として全区共通の部分は〇〇区地域保健福祉計画でなく、横浜市計画として示された方が効率的・効果的であると感じます。さらに思えば財源の面からも、タコつぼみにあちこちで同じ様な事をするよりまとめた方が良い気がします。とに角、横浜市は大きすぎてきめ細かい福祉の実現（区単位レベルでの福祉の実現）では残念ながら見劣りしていると思っています。計画に対しネガティブ雰囲気ばかりですが、何かビックリする位の対策を打ち出さないと、ささえあいじりひんは必定の世の中になってしまっていると私は確信しています。	横浜市の地域福祉保健計画は市計画、区域計画、地区別計画からなり、市域の取組は市計画に盛り込むこととしています。金沢ささえあいプランの意見募集は区域計画素案について行いました。いただいたご意見は今後の参考とします。

10	<p>百歳賀寿の祝い名称について          賀寿の名称については、還暦、古稀、菀寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿等が良く知られており、それぞれ意味を持っています。しかし、百歳は、単に百寿と称して、ロマンもユーモアありません。そこで、金沢区では、これを「金寿」称することを提案します。金という字を分解すると、八一、十八、一となります。合計すると百です。(95歳は珍寿というそうです。珍という字は、一、十一、八三で合計95になります。)というわけで、金とは誠に目出度い字であり、かつ金沢区の頭文字でもあります。敬老の日にあたり、区長が百歳のお祝いを贈呈する時は「金寿」という名称をお使いいただきたく、お願いいたします。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>このような立派な冊子を作ることに税金を使わないでほしい。コロナ禍での集まり(体操等)は危険なので区が禁止すべきだと思う。感染が広まってからでは遅い。高齢者は死亡の可能性もある。なぜ禁止しないのか納得できない。</p>	<p>計画や取組の認知度については課題と考えおり、今後も様々な媒体を活用して周知啓発に努めていきます。コロナ禍での地域活動については、感染症のリスクがある一方で、外出や交流の機会が減ることによる心身へのリスクがあり、感染予防に留意した活動方法等について情報を提供していきます。</p>
12	<p>私は金沢区環境事業推進委員です。          蚊発生防止について          私達はごみ廃棄方法のルール徹底、不法に捨てられたごみの除去など、街の美化に努めております。          他方、夏から秋にかけては、蚊が多く発生し、一種の環境汚染を受け困っております。          蚊が発生する余計な水たまりなどは作らぬように市民は努力しておりますが、なお、蚊が多く発生しております。          この蚊は道路わきにある雨水桧からわいて来ることが分かっています。雨水桧には、土砂を側溝に流さぬために底に水溜めが作られています。ここにボウフラがわき蚊になります。ボウフラの期間は約1週間と言われています。それ故、梅雨時のように頻りに降雨があると、水溜のボウフラは流されてしまい、蚊にはなれません。しかし、梅雨明け以降、1週間以上降雨がないと蚊がわいてきます。          この対策として、雨の時だけ道路の水を雨水桧に流し、道路に水がない時は自動的に穴をふさいでしまう構造の雨水桧もあるようです。しかし、市内全域をこれにへんこうすることは膨大な費用がかかります。水溜めに石油等油をまいてボウフラが呼吸できなくする方法もありますが、油は流れたり蒸発したりで、不経済です。また、雨水桧の穴にネットをかぶせる実験を試みましたが、すぐにネットに土砂やゴミが溜まってしまい、これは不可能であることがわかりました。          別案として、水溜の水が一週間以上滞留しなければ、蚊はわかないこととなります。そのために、水溜の底に小さな穴をあけ、一週間以内に水が土の中に浸透してしまう構造にすればボウフラは蚊に変態することができません。これは、ドリルなどで、水溜</p>	<p>ご指摘のとおり金沢区に限ったことではなく市全体に関わるため、所管課である環境創造局と共有しました。</p>

	<p>に穴を開けるだけなので、甚だ経済的と考えます。</p> <p>実は以前にも土木事務所にこういう提案をしましたが、浸透可能な地域に指定されていないので、できないという回答でした。しかし、各家庭の庭などに降った雨水や公園の雨などは、自然浸透させているわけで、回答は矛盾に富んだものと言わざるを得ません。</p> <p>これは、金沢区に限ったことではなく、市全体の問題です。環境創造局と実施可能性について、よくご検討されることを希望いたします。</p>	
13	<p>私の家の近くに6軒空家があります。内5軒は消息がはっきりしておりますが1軒について老人ホームに居る事は前の時点でわかっているのですが、どこの老人ホームかわかりません。10年以上は過ぎており、毎年草が伸び放題。町内で年1~2度草刈りはしているのですが、雑草なので成長が早く大変苦勞しております。役所で確認出来ますでしょうか。よろしくお願いします。</p>	<p>ご意見いただいた内容については区政推進課が担当となりますので、一度ご相談ください。</p>
14	<p>並木三丁目を中心にシーサイドタウン連合自治会と金沢東部町内会で今進めている「長浜検疫所跡建物の住民に利用させてほしい」との活動があります。今後高令化にともない並木3丁目、谷津坂東部地区で起きるであろう各問題(買物難民、交流の場所等)を跡建物を利用することで住民サービスが望めます。たとえば住民交流の場、健康維持のサロン教室、一人暮らしの方への弁当配食、子供食堂等々、ぜひささえあいプランに具体的活動拠点として後推願したい!!</p>	<p>横浜検疫所の中区への移転に伴い、国は跡地を売却すると聞いていますが、横浜市がこの跡地を引き取ることは考えていません。</p> <p>また、旧長濱検疫所一号停留所(厚生労働省横浜検疫所検疫資料館)は、国の登録有形文化財であり、文化財保護法では所有者が保存・活用すると規定されており、現在、厚生労働省には引き続き保存、管理するよう求めているところです。</p>
15	<p>地域ケアプラザについて、いろいろ話をしてきたにもかかわらず、まったく進んでいない。</p> <p>いつになったら、西友横の場所に建設されるのでしょうか?</p>	<p>西柴中学校圏域の地域ケアプラザについては令和5年3月に柴町に開設を予定しています。</p>
16	<p>地域拠点となる地域包括センターの活動のキャパオーバーが気になります。</p>	<p>地域包括支援センターの人員基準は国で規定されており、高齢者人口に応じて配置されています。また横浜市では日常生活圏域ごとの地域包括ケアシステムの実現に向けて、生活支援コーディネーターを各地域ケアプラザに配置しており、ケアプラザが一丸となり安心して健やかに暮らし続けられる地域づくりを進めています。</p>
17	<p>誰もが安心してすみつけられるように、最初に掲げられています。</p> <p>今、一番の不安は災害時、私はどうなるの。プランの項目に、災害時の「地域の取り組み」についての記述がないのはなぜですか。</p> <p>「大規模災害時に避難活動や要援護者の安否確認等の助けあえる取り組みを進める」の1行。「災害などでも地域で暮らす障害</p>	<p>災害時における「地域の取組」を含めた災害対応については横浜市防災計画及び金沢区防災計画等に記載しております。</p> <p>災害での被害を最小限に抑える「減災」に向けて、区民や事業者</p>

	<p>者が安心・・・出前講座を行っています」のコラム。26 防災拠点のうちいくつかで実施されたのでしょうか。また、実施数が少ないとしたら、なぜなのでしょう。ここだけでも数ページに渡る取り組みの記述が必要なのでは。災害は待たないです。防災拠点での、避難時の体育館の配置図。女性への配慮。障害者への配慮。ペット同行者への対応。しなければならないことはすでに提示されていますね。やるべきことは、示されています。</p> <p>ここで、問題なのは、運営の「担い手問題」。「そんなに言われてもできないよ」「運営委員の方がすべてするのではなく、避難してきたとひとたちの協力で」そのとおりです。ポイントは、「地域の皆さん」の協力です。そのとおりです。この「地域の皆さん」の協力が、なかなかできない。保健福祉のプランで出てくるのも「担い手問題です」安心して健やかに住むのが脅かされる最たるものが「災害」です。地域みんなが取り組める仕組み作りが「計画として」年次進行で取り組まなければいけない。「身近な地域でのちょっとした支えあいや安心の輪が広がる」これが、あるかないかが、災害時の命を救うキモです。ずっとこれも言われています。いろいろな取り組みがされているのは、わかります。問題はそれが、防災という視点で抑えられていない。整理されていないということです。</p> <p>災害時に区役所、区社協、地域ケアプラザが連携しながら取り組む「災害時における対応についての」区域計画の提示がない。災害が発生したとき、区がどう対応し、区社協は「災害ボランティアセンターの運営でどう対応するのか」地域ケアプラザは「福祉避難所運営でどう対応するのか」記述され、地域の皆さんに提示する必要があるのではないか。</p>	<p>の減災行動に対する理解の促進と関係機関との連携強化等、その実践につなげていくため、自助・共助・公助の考え方に基づく減災計画を推進していきます。</p>
18	<p>町内会やマンション管理組合は、家庭生活の維持と寝に帰る安眠場所を確保する必要最低限の基礎的社会活動の一環と小生は位置づけていたと思います。生活を支え対価を稼ぐ場所が東京で、人間の尊厳を維持し体力をリフレッシュする空間が金沢区との考えで過ごしてきた小生にとって、労働とは罪深き罰の考えはなく、能動的に楽しむこと（先輩から会社は動物園、自ら動くと楽しい）に専念するポジティブ感で過ごしてきました。通勤地獄とサラリーマン生活を卒業しシニア世代なり、社会参加の自治会活動の機会を頂いています。サラリーマン時代社会福祉協議会の存在も話題もなく、同協議会を先輩が社協、社協と表現していましたが存在意義は未だに理解出来ていません。市役所の外郭団体との認識です。生活面での関わりが薄かったのかもしれませんが。</p> <p>リーフレットに”地域の皆さん”と”区役所”を取り巻く模倣図で考えて視たときに0度（360度）に“地域のみなさん”、180度に“行政区役所”です。その右側1度～179度は純粋に民間団体（法律で保護されていな町内会、ボランティア、子ども会、サークル団体等々）、181度～359度までを準行政（法律で保護されている民生委員、社協や警察、ケアプラザ等々）で色分けできると少し解りやすいと考えますが？。個人が生活する上で、手厚い社会保障の管理社会を求めるか、自由と人権を求め公正公平な社会を金沢区民に求めるか？どのような生活スタイルを望んで</p>	<p>地区社協は、地域の方々が自分たちの地域は自分たちでよくしていこうという気持ちで組織された任意の団体です。課題を発見し、解決に向けて話し合い、取り組める組織です。市内では、市社協・区社協・地区社協が組織されています。社協については、機会あるごとにご説明をさせていただきます。また、リーフレット（素案9ページ）の楕円図については、地域の様々な方が関わっているという趣旨で作成しており、明確な色分けは困難と考えました。</p>

いるかで随分異なる計画となります。2割の方は手厚い社会保障が有って負担や義務がなく自由・権利・収入を求め、時間軸や世代感、費用対効果等の側面を入れて一考すると、残りの8割は収入がそこそこ担保され費用負担がそれなりで隣人との適度の距離感で利便性と生活環境が維持され自然に恵まれ、放置国家で安全で安心な町となります。現実には、存在していないが錯覚した環境と考えていますが、近づけることはできると考えます。

豊かさを時間できる事は何かを考えた場合、人それぞれの価値観で異なりますが、個人的に電気・電灯、情報・通信、片側2車線道路・渋滞がない道、道路・歩道、庭・生け垣、分流下水道・上水道、公園・球技広場、河川・遊歩道、病院・リハビリ施設、図書館・市民講座、等々です。箱物施設も必要性は感じますが、別段金沢区の歴史から近くにある必要性を感じません。

最後に、“金沢ささえあいプラン”を企画する上で、どのような組織がランドデザインを考えスケジュールを明確にした情報の公開と一貫性の説明が必要と考えます。あれもこれもといった内容でなくコンセプトをひとつ決めそれに即した活動を基本に、金沢区の個性を出して欲しいと考えます。確かに、求める自助、共助、公助と個人個人のスキルは異なります。護送船団のどの位置にするかの議論も必要です。社会福祉協議会には町内会の分担金が活用されています。横浜市に囚われず金沢区の個性を大切にしたい行動で必要な条例を制定変更してでも構わないと考えます。